

1. 趣旨

この報告書は、「図書館法」(昭和 25 年法律第 118 号) 第 7 条の 3、「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」(平成 24 年文部科学省告示第 172 号)、「市川市立図書館の設置及び管理に関する条例施行規則」(平成 21 年教育委員会規則第 6 号) 第 1 条の 2 及び「市川市立中央図書館の管理に関する規則」(平成 6 年教育委員会規則第 9 号) 第 2 条に基づき、平成 25 年度の市川市立図書館の運営状況について評価・分析を行いサービス向上に資するものである。

2. 評価内容

「市川市立図書館中期計画」(平成 23 年度～平成 25 年度) の具体的な施策に沿って行った、取り組み内容と数値目標の達成度に基づき、平成 25 年度の市川市立図書館の評価を行った。

3. 評価の基準について

1) 数値目標が設定されている項目の評価

具体的な施策の各項目の目標数値に対して、以下の表の左の割合を達成したとき、右の評価(A～Dの4段階)とした。

目標値に対する達成度	評価
100%超	A
100%以下～75%以上 *注	B
90%未満～50%以上 *注	C
50%未満	D

*注 評価の傾斜配分について
目標数値の桁数に応じて、桁数の少ない数値の場合は割合を低く、また、桁数の多い数値の場合は割合を高く設定した。

2) 数値目標の設定がない項目の評価

具体的な施策の各項目の実施目標に対して、取り組みの内容により右の評価(A～Dの4段階)とした。

実施内容	評価
目標どおり取り組みを実施し、目標を上回る成果があった。	A
目標どおり取り組みを実施し、一定の成果をあげた。	B
取り組みを実施したが、十分な成果をあげることができなかった。	C
実施できていない。課題の整理、計画の見直しが必要である。	D

4. 評価結果

平成 25 年度は、「市川市立図書館中期計画」の具体的な施策全 24 項目のうち、A評価が 16 項目、B評価が 5 項目、評価外が 3 項目という結果になった。評価外のうち 2 項目については、当該年度において当初予算として査定されなかったものであり、図書館所掌業務として評価し難いことから評価外とした。今後は、適切な評価指標のあり方を検証し、次期計画に活かしたい。

細部においては、課題が残るものもあったが、総合的には全て「B」評価以上であったため、目標は概ね達成でき一定の成果をあげたといえる。

「市川市立図書館中期計画」に基づく図書館評価結果（平成25年度）

市川市立図書館のサービス向上を図るため、「市川市立図書館中期計画」に沿って行った平成25年度の図書館運営について、取り組み内容と数値目標達成度に基づき、評価を行いましたので報告いたします。

1. 学びを支える図書館

施策の方向 「身近に図書館が利用できるよう、図書館ネットワークの整備」

具体的な施策	総合評価	結果	目標値等	
登録者数の拡大(登録者数)	B	136,570	152,000	人
図書館未設置区域への自動車図書館の巡回(利用者数)	A	6,565	5,700	人
利用者の利便性を高める、電算システムの整備	A	改善	整備	

評価 図書館を利用したことのない市民の利用を促すため、広報やHPでイベントのPRを行い、学校への学級訪問では子どもたちに図書館の利用を呼び掛けたが、登録者数については目標値に届かなかった。
図書館未設置区域を巡回する自動車図書館の利用者数については、目標を達成することができた。
電算システムにおいては、利用者蔵書検索システム(OPAC)の貸出延長や予約変更の方法に改善を加え、利用者の利便性を高めることができたことは評価できる。

課題 広報や市の公式HPを活用し、未登録者へ向けて魅力あるイベントを実施し、PR等を行っていくことで登録率を上げていく必要がある。また、図書館未設置区域の北部地域へはサービス拡大の要望もあり、自動車図書館の巡回だけではなく、関連施設等の活用方法が課題である。

方向性 平成26年度は市制施行80周年、中央図書館開館20周年を迎えるため、図書館でも集客力のある記念イベントを計画・実施し、未登録者へ向けて更なるPRを展開する。また、平成26年度は図書館未設置区域の北部地域にある大野公民館図書室でCDの返却受付を試行するが、その結果をふまえ関連施設の活用方法等を検討していく。

2. 情報拠点としての図書館

施策の方向 ①「様々な市民の学習要求に応えられる、蔵書の収集と維持」
②「ICタグによる蔵書管理」
③「レファレンスサービスの充実」

具体的な施策	総合評価	結果	目標値等	
図書資料の更新(受入冊数)-①	B	50,917	55,000	冊
ビデオからDVDへの移行(中央・駅南でのDVD受入点数)-①	—	66	320	点
それぞれの障害に適した資料の充実(各種資料の受入点数)-①	A	421	400	点
効果的な蔵書管理による、魅力的な棚揃えの実現(ICタグ付与・進行状況等)-②	—	次年度予算の確保	地域館へ付与	
案内・回答機能の向上を通じた、市民の調査活動の積極的支援(レファレンス件数)-③	A	69,348	63,800	件
国立国会図書館主催の「レファレンス研修」及び県教育委員会主催の研修等への、職員の継続的な参加(一人当たり年2回の参加を目標とした人数)-③	A	144	106	人

評価 図書資料受入数は、目標値には達しなかったが、寄贈資料を活用し、資料の更新に努めることができた。DVD受入数は、DVDの資料費が予算配分されず、図書の資料費の一部を充てたものの、映像資料に関しては著作権の問題から寄贈資料を活用することができないため、評価外とした。

効果的な蔵書管理のため計画中のICタグ導入と集密書架設置については、過去数年に渡り予算要求を続けた結果、集密書架一部設置を行うことができ、蔵書の維持管理の面で前進した。また、平成26年には集密書架の一部設置の継続及び行徳図書館の新刊図書へのICタグ導入が決まった。

レファレンス受付件数は目標を達成することができた。また、研修参加については、全館的に積極的にを行い、レファレンスサービスの充実につながった。

課題 蔵書の構築に関しては、計画的に資料が更新されるよう継続的な資料費の確保が必要ではあるが、限られた資料費を十分に活かせるような資料の選定を行っていくことが課題である。集密書架を一部設置したが、効率的な蔵書管理を図るため、資料保存についての全館的な計画が必要である。

方向性 資料の選定については、引き続き蔵書構成や利用状況をきめ細かく分析して資料選定を行っていくとともに、更なる寄贈資料の積極的活用を全館で進めていく。資料保存についての全館的な計画を作成し、効率的な蔵書管理を進めていく。

3. 子どもの成長をサポートする図書館

- 施策の方向 ①「発達に応じた豊かな読書のための環境の整備」
②「教育センターや学校図書館との連携」

具体的な施策	総合評価	結果	目標値等	
子どもの知識欲を満たす資料や、蔵書の核となる資料の更新(受入冊数) -①	B	9,278	10,000	冊
様々な年齢層に対する読み聞かせの会を実施(全館での参加者)-①	A	2,122	2,100	人
子どもや周囲の大人が本を選ぶ参考となるブックリストの作成と配布 -①	A	作成配布	作成配布	
新指導要領に即した学校ネットワーク用図書更新(受入冊数) -②	B	186	200	冊
中学校向け学級文庫の運用開始と小学校向け学級文庫の更新(受入冊数)*1-②	—	目標達成	200	冊
教育センターや学校図書館との連携の推進(貸出依頼の受付件数)-②	A	533	500	件

*1学級文庫は、平成23年度に国からの「住民生活に光をそそぐ交付金」により資料更新し、目標達成につき評価外とした。

評価 図書資料の更新に当たっては、目標値に達することができなかったが、寄贈資料の活用により更新に努めることができた。特に学校ネットワーク用図書については、博物館からの寄贈により、複本を揃えることができた。また、小学生に向けたブックリスト「本のぼけっと」の発行だけではなく、年齢別幼児向けリスト「よんであげたいえほん」の改訂・発行も併せて行うことができた。教育センターや学校図書館と連携している事業(学校図書館支援センター事業)では、各校から積極的な貸出依頼があった。

課題 読み聞かせの会等の図書館行事への参加者は微増であるが、更に参加をうながすための方策が必要である。図書館資料は、計画的な更新を図ることが必要であり、それには継続的な資料費の確保が重要ではあるが、限られた資料費を効果的に活かせる資料の選定が課題である。

方向性 子育てに関わる関係部署と連携を図り、「いちかわっこWEB」等に情報を発信するなど周知に努める。また、保護者や子どもたちに関わる大人への講座なども開催頻度や内容を見直していく。平成26年度は市制施行80周年、中央図書館開館20周年を迎えるため、文学ミュージアム・こども館・学校など関係部署と協力し、図書館の利用拡大につながるよう情報発信をしていく。

4. 地域の文化を育む図書館

- 施策の方向 「市川市の歴史・文化の保存と継承」

具体的な施策	総合評価	結果	目標値等	
地域行政資料の収集と整理(受入冊数)	A	1,980	1,500	冊
市民の著作物(特別コレクション含む)の収集と整理(受入冊数)	A	573	150	冊
地域行政情報のホームページからの発信	A	発信	発信	

評価 中央図書館では新たな特別コレクションとして、ご遺族から寄贈を受けた資料や草稿類等によるコレクション「渡邊二郎」コーナーを新設した。地域行政資料は全館とも寄贈を含めて積極的に収集し、整理したことは評価できる。ホームページからの情報発信については、平成24年度に資料整理を行った「市川ゆかりの人検索」を更新し、市川ゆかりの作家家のページ「渡邊二郎」を新たに作成した。

課題 収容量に限られる地域館では、地域行政資料の保存が困難なため、中央図書館への保管転換を進めていく必要がある。また、中央図書館では、地域行政資料を永年で保存していくためのスペースの確保と資料の劣化対策が引き続き課題である。

方向性 集密書架の一部設置による資料保存の再配置を計画する中で、地域行政資料の保存スペースの十分な確保を図り、地域館からの資料受入れを進めていく。また、資料の劣化対策として、著作権保護期間満了の資料の電子化等も計画していく。収集保存してきた地域行政資料を広く活用できるように、資料の整理を行い、ホームページからの情報発信に努める。

5. 連携や協働で多様なサービスを展開する図書館

- 施策の方向 ①「市民ボランティアとの連携の強化と活動のバックアップ」
②「市内外の関係機関とのネットワークの充実による、質の高いサービスの提供」

具体的な施策	総合評価	結果	目標値等	
「市川図書館友の会」との連携(連携回数)*2 -①	A	6	4	回
障害者サービス団体への障害者向資料の作成の依頼(依頼による作成点数)-②	A	33	20	点
大学附属図書館への紹介状の発行(発行回数)-②	A	109	100	回

*2中期計画では友の会講座への講師派遣回数としていたが、友の会の活動内容により回数は異なるため様々な活動での連携回数とした。

評価 市川図書館友の会と、中央・行徳のリサイクルブック市を共催した。また図書館からは友の会講座の講師として職員を派遣し、友の会は図書館来館者アンケートの配布や夏休み体験ボランティアの受け入れに協力をするなど、連携をとることができた。

障害者サービス関連のボランティア団体への資料作成依頼は、布の絵本、布のおもちゃ、DAISY図書の製作数が目標数を大きく上回り、障害者向資料の充実を図ることができたことは評価できる。

紹介状発行のうち大きな割合を占める千葉商科大学附属図書館の紹介状希望者は増加傾向にあり、目標値を超えることができた。

課題 ボランティア活動の拡充と多様な図書館サービスの充実を図るため、引き続き、生涯学習に関わる市民ボランティアや関連機関との連携強化が課題である。

方向性 平成26年度はリサイクルブック市に加えて、中央図書館開館20周年の記念イベントが予定されているため、ボランティア団体とより一層連絡を密にし、連携したイベント等を実施していく。

市内大学図書館との連携サービスについては、引き続き市民にPRしていく。

6. まちづくりを支える図書館

- 施策の方向 ①「市民生活に必要な情報の取得と積極的な発信」
②「議会図書室との連携」

具体的な施策	総合評価	結果	目標値等	
行政各部署と連携した、地域や行政に関わる特集展示の実施(実施回数)-①	A	6	5	回
地域行政資料の収集と整理(受入冊数)-①	A	1,980	1,500	冊
議会図書室と連携した、議員の調査研究のサポート-②	B	継続	充実	

評価 行政各部署と連携した特集展示の実施は、保健センター、文学ミュージアム、動植物園、雇用労政課と、平成24年度と異なる課と連携した。また市の公式フェイスブックも活用し、市民に有用な情報発信をすることができた。他に、図書館の主催事業として、千葉県文書館の講師による初の歴史講座を行った。

地域行政資料の収集受入は全館で進めており、市民に必要な情報提供に繋がった。
議員からのレファレンス依頼を受け、議員の調査研究、政策立案に資することができた。

課題 図書館が行政PRの拠点として位置付けられるよう、中央図書館だけではなく地域館でも行政各部署と連携した情報発信を行うことが引き続き課題である。

議会図書室へは図書館から定期的なPRを行い、連携を継続させていく必要がある。

方向性 平成26年度は市制施行80周年を迎えるため、図書館でも行政各部署と連携し、記念事業を実施していく。また、中央図書館の開館20周年に併せた講座、展示などを行い、市民への情報発信を行う。

図書館に新しく導入されたデータベース情報など、議会事務局を含めた行政各部署に積極的にPRしていく。

平成25年度 総合結果

平成25年度は、特に、2.「情報拠点としての図書館」では集密書架の一部設置により効率的な蔵書管理を進めることができ、研修参加については全館的に積極的に行い、レファレンスサービスの充実につながった。また、4.「地域の文化を育む図書館」では新規特別コレクションの設置を行い、地域行政資料の受入冊数においては全館で寄贈資料を活用し、大幅に目標値を超え、成果を上げることができた。

一方、図書館登録者数は目標値を下回っており、図書館を利用したことのない市民に対して魅力的なイベントがPRできるような方策が必要である。また、DVDの資料費が予算配分されなかったため評価外としたが、図書館として各種資料の収集についての優先順位をどのように考えるか明確にし、限りある資料費を十分活かせるような資料の選定をしていくことが課題である。

総合的には、平成24年度に引き続き全ての項目がB判定以上だったため、平成25年度も6つのミッションにおいて目標は概ね達成でき、一定の成果を上げることができたといえる。